

Freude

vol. 8 -14 2016. 5. 25 wed

声で！いつも

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ <http://www.osakafreude.com>
メールアドレス info@osakafreude.com

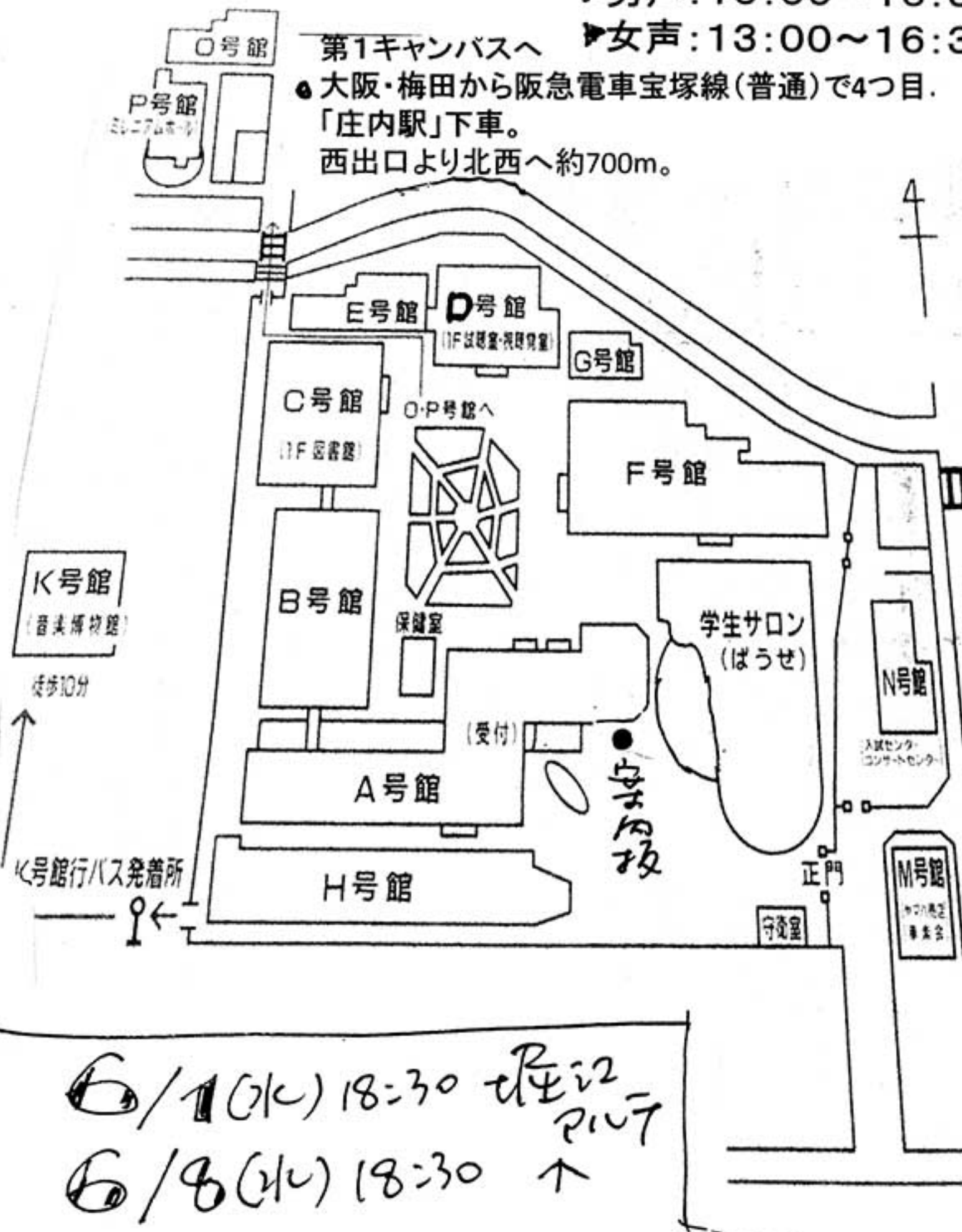
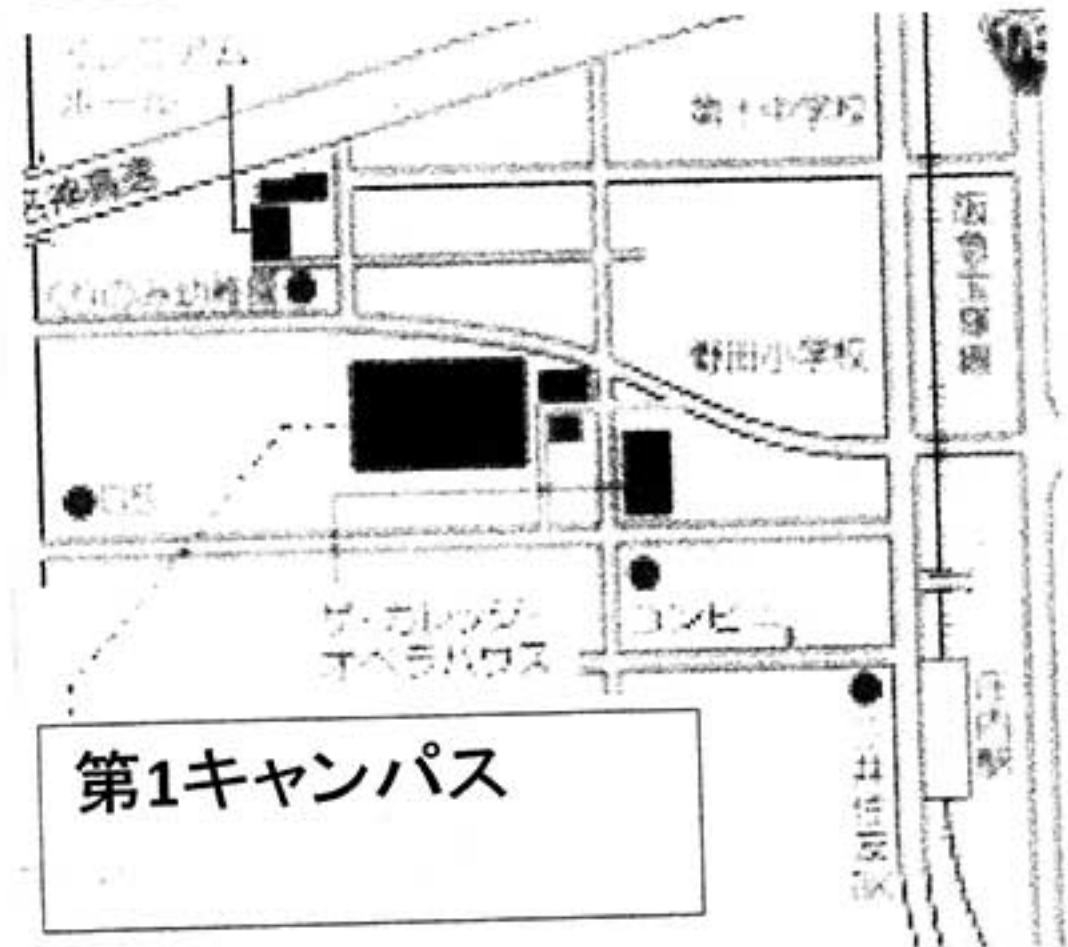
5/18の練習も
324の Agnus Dei の 8 拍子の 23 ~ 78 まで

「おもうよていを 覚えるか、あはれん
ちよとたてちかう」音形で、ややこいからあはれよめ!

5/29 (日) 大阪
D棟 D201, D202

▶男声: 10:00~16:30
▶女声: 13:00~16:30

第1キャンパスへ
●大阪・梅田から阪急電車宝塚線(普通)で4つ目。
「庄内駅」下車。
西出口より北西へ約700m。



6/18(土)
19(日)も
ここを練習するぞ。
(18日の予定から
変更にするよ!)

6/10(水) 18:30 練習
6/8(水) 18:30 ↑

シューベルトとの出会いと謝辞。

Voice

29年勤務した銀行を今年5月に退職することとなったのですが、振り返るといつも、歌曲やオペラは傍にありました。金融危機やペイオフ騒動で二度に亘る合併を前後して激務が続き、音楽どころでは無くなった状況に陥ったことが度々ありました。そんな時、突然「あの声」が歌い出すのです。フィッシャーディースカウ、ヘルマンブライ、ハンスホッター、フリッツブンダーリッヒ、デルモナコ、ニコライゲッダ、ニコライギャフロフ、シュバルツコップ、ロスアンヘルス。アメリング等々、数多の20世紀の偉大なオペラ歌手やリート歌手の声が響き止まないのです。歌と音楽に救われた半生でしょうか。初めて、クラシックの歌と出会ったのは、忘れもしません、二十歳過ぎの頃、ロベルトシューマンの「詩人の恋」を歌う、フィッシャーディースカウの声です。人の声が、チェロのような響きを奏で、2オクターブからの声域を楽々カバーして歌いあげる！その声に仰天し、ひたすら、喪失、朦朧、覚醒を感じ、最後は屈服したわけです。それを契機に「歌曲王」シューベルトを聞き出しました。「魔王」とか「野ばら」は学校教育を通じてご存知の方も多いたと思いますが、600曲ほどある歌曲の中には、ディースカウのように「歌える人だけが歌える」名曲がたくさんあります。「水の上で歌う：Auf dem Wasser zu Singen」D774など、その代表でしょう。詩人が新婚旅行の途上、愛する新妻に捧げたとか。「舟歌（バルカローレ）」とも言われますが、小船に横たわって、この幸せの中で、このまま消え去りたい。幸せの中の悲しみ、死への憧れさえ感じる歌です。長調から短調へ、短調から長調への移ろいがそれを強調します。ピアノのリズムは水面の揺らめきを見事に奏でます。

波の上 きらめく光	Mitten im Schimmer der spiegelnden Wellen
白鳥のように小船は揺れ行く	Gleitet, wie Schwane, der wankende Kahn:
喜びに波は穏やかにきらめき	Ach, auf der Frude sanftschimmerden Wellen
私の心も小船に乗せて	Gleitet die Seele dahin wie der Kahn
波間に降り注ぐ天からの光	Denn von dem Himmel herab auf die Kahn
船のまわりで夕日は踊る	Tanzet das Abendrot rund um den Kahn

.....

昨年6月から入団した当合唱団でシューベルトのミサを初めて知りました。グリークラブに所属しながら、専らオペラや歌曲に傾注してしまい、宗教曲合唱はほとんど手付かず無知蒙昧。先生方のおかげで、音楽の幅が広がりました。転籍して別会社になると、それなりに忙しいようで、いつまで活動できるかわかりませんが、時間と事情の許す限り当団に参上させて頂きたし。

深謝。

星野久史:Bariton